

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

事業所名: ニチイケアセンター住之江安立

作成者: 梶川 郁子

作成日: R7年 2月 7日

運営推進会議における評価実施日: R7年 1月 26日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所自己評価	記述	運営推進会議における外部評価	記述
I. 理念・安心と安全に基づく運営						
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	B	研修、OJT、面談にて対応できるように意識づけを行っている。		
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	B	地域とのコミュニティと連携できるように努めていく。		
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	A	会議で聞き取りしたゲームやイベントを取り入れている。		
4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	B			
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	A	研修やWEB研修を通して理解を深め実践している。 会社全体で重要事項と認識している。	A	夜間の対応は大変だと思います
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	A	研修やWEB研修を通して理解を深め業務の中で実践している。	B	職員のストレスケア、意見交換をできるように
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	A	毎月の研修や会議の話し合いで虐待防止に努めている。		
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	A			
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	A	外部評価やお客さま各位の意見を運営に反映させている。	A	家族等に説明、理解を得る
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	A			
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	A		A	職員一人ひとり職場での悩みを管理者が良く聞いて改善してほしい
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	A	OJT、個人面談の実施により現状把握に努めている。	A	職員一人ひとり職場での悩みを管理者が良く聞いて改善してほしい
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	A			
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	A			
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	A			

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチケアセンター住之江安立

作成者: 梶川 郁子

作成日: R7年 2月 7日

運営推進会議における評価実施日: R7年 1月 26日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進会 議におけ る外部 評価	記述
II. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	A			
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	A		B	利用者家族の意見を聞いてそれに対して努力してほしい
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	A		B	利用者の今までの暮らし、生活環境を記録、安心して生活できるように努めてほしい
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	A			
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	A			
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	A	医療との連携をとり、ご利用者の健康管理に努めている。		
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	A		A	安心して医療が受けれる体制作り
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	A	医療、ご家族と連携にてご利用者が安全で望まれる生活をできる限り提供するように努める。	A	同感です
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	B	マニュアルを活用した研修にて意識付けを図っている。		
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	C	BCPIに沿った研修、訓練にて意識付けを図っている。	A	グループホーム内での避難訓練を行い地域住民、消防署等と協力体制を取るように

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチケアセンター住之江安立

作成者: 梶川 郁子

作成日: R7年 2月 7日

運営推進会議における評価実施日: R7年 1月 26日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進会議 における 外部評価	記述
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	A		A	利用者の性格が異なるので難しい
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	A			
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	A		A	誕生日会などの催しがある時など本人に食べたい物などを伺う
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	A			
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	A	歯科医との連携、アドバイスにてご利用者に合う、口腔内の清潔保持に努めている。	A	左と同感
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	A		A	水分補給を心掛ける
32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	A	好みの入浴剤なども持ち込んで頂く。	B	拒否される方もいて声掛けが大変だと思います。
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	A			
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	A		A	個々のパターンがあると思います。
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	A	お手伝いなどの役割を持って頂いたりレクリエーション活動で楽しみや生きがいのある生活を提供できるように努めている。		
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	B	ご家族の協力なしでは難しい。		
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	A	商店街やコンビニ等で自由に買い物ができるように支援している。		
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	C	携帯電話を持って自由に話ができる。また手紙、はがきのやり取りをお手伝いさせて頂いている。		
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	A	壁には月毎、季節に合った絵などをご利用者と作成したりと季節を感じて頂けるように工夫している。	A	玄関ホールには皆さんで作られた季節に応じた花など飾られている

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチイケアセンター住之江安立

作成者: 梶川 郁子

作成日: R7年 2月 7日

運営推進会議における評価実施日: R7年 1月 26日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進会議 における 外部評価	記述
IV. 本人の暮らしの状況把握・確認項目(利用者一人ひとりの確認項目)						
40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができています	A			
41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができています	B	利用者毎のアセスメント、申し送りを徹底している。		
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができています	A	利用者毎のペースを把握にてスタッフ間での情報共有。	B	
43	生活の継続性	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができています	A			
44		本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができています	A		A	
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができています	C			
46	本人が持つ力の活用	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができています	A	声掛け方法の重要性を再認識する。		
47		本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場を日々の暮らしの中で得ることができています	B		A	ホールで皆さまと会話されている場面をよく見かけます。
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができています	B	地域のボランティアとの交流あり		
49	総合	本人は、このGHIにいて、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができています	A	アクティビティの工夫と継続が大事	A	私たち地域にニチイさんからお声をかけて頂き、利用者と一緒に参加しています。

総評

現状におけるご指摘事項・事業所の課題

<p>自宅で過ごしていた頃の人間関係や馴染みの物を大事にしながら、安全で穏やかな生活を提供する。また、意欲低下のないように既存能力を少しでも伸ばせる工夫はできている為引き続き会議やカンファレンスの時間は取り、情報共有にてサービス提供に努める。</p>	<p>ご利用者のADL低下や周辺症状の悪化に伴い、介助方法の変更など個々に合わせた介護援助の統一が難しい</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------

参加者サイン欄

池田順子